

Asia Indicators

発表日:2023年7月3日(月)

オーストラリア:輸出入(23年4月)

～輸出は軟調な資源価格を受けて減少、輸入はサービスを中心に増加～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 阿原 健一郎(Tel:050-5470-4868)

オーストラリアの輸出入

	四半期				月次			
	22/3Q	22/4Q	23/1Q	23/2Q	23/1月	23/2月	23/3月	23/4月
輸出 (前期比、%)	-1.9	1.8	0.3	-3.5	2.0	-3.2	4.1	-5.0
輸出 (前年比、%)	24.7	30.3	16.2	-6.9	18.3	13.3	16.9	2.0
輸入 (前期比、%)	8.7	-3.7	-1.1	0.3	5.3	-10.3	3.7	1.6
輸入 (前年比、%)	41.6	25.0	9.6	-2.0	27.4	-2.9	6.2	6.7

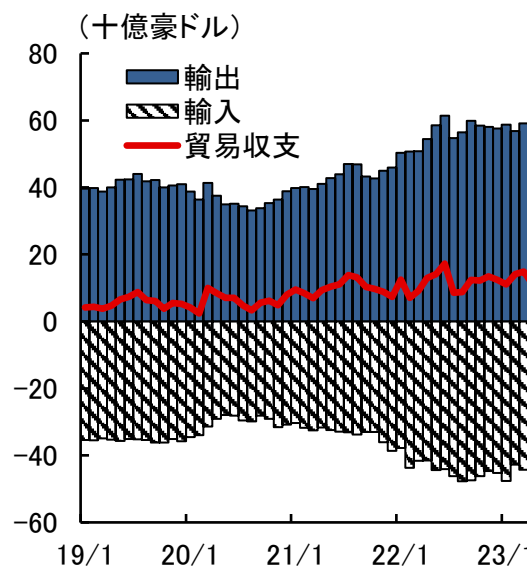
(出所)CEICから第一生命経済研究所作成

4月のオーストラリアの貿易収支(季節調整済)は、輸出が鉱物資源を中心に前月比▲5.0%減少したうえ、輸入が旅行サービスを中心に前月比+1.6%増加したため、+112億豪ドルと前月から黒字幅を縮小した(図表1)。

輸出を品目別にみると、4月は主要品目である鉱物資源が幅広く減少した(図表2)。なかでも、大きく減少しているのが石炭である。石炭の国別輸出額を確認すると、足もと、日本向けの輸出が大きく減少している(図表3)。日本には、発電用燃料として使用される一般炭を多く輸出しているが、一般炭の価格低下に加え、4月は輸出量も減少したため、大きく減少する形となった。一般炭の価格は、昨年まで、天然ガスやロシア産石炭の代替需要の高まりから上昇していたものの、本年入り後は、天然ガス価格の低下に伴い代替需要が減少し、価格も低下している。

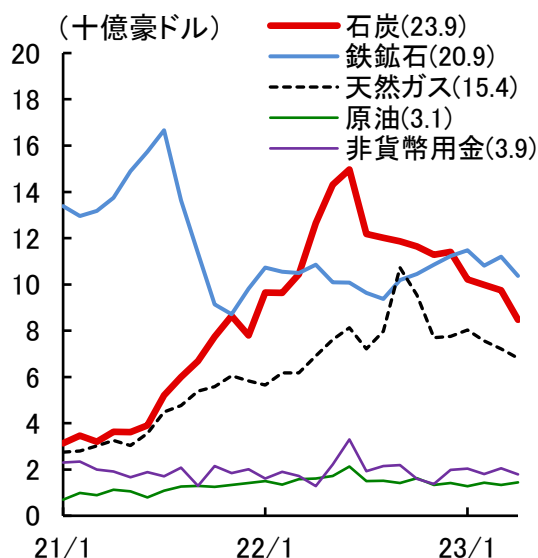
また、日本の天然ガス在庫が過去対比で増加しているもと、代替需要が減少したためか、4月は日本向けの輸出量も減少している。なお、中国向けの石炭の輸出は、両国の緊張関係が緩和するもとで輸出が再開されて以降、足もとに至るまで増加基調にある。鉄鉱石は、最大の輸出相手国である中国の鉄鋼需要の弱まりを受け、前月からは再び減少に転じた。天然ガスは、需要が弱まるもとで価格が軟調に推移し、輸出も減少している。

【図表1】輸出入の推移



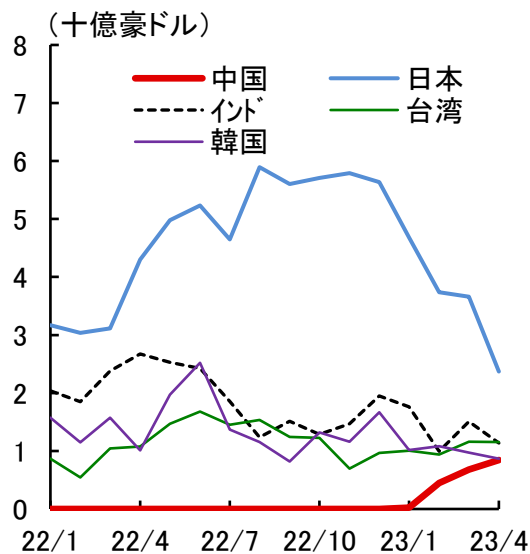
(注)直近は4月、当局季節調整値。輸入は逆符号で表示。
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成。

【図表2】主要輸出品目の推移



(注)直近は4月、第一生命経済研究所にて季節調整。
 ()内は22年輸出額に占める割合。
 (出所)CEICより第一生命経済研究所作成。

【図表3】石炭の国別輸出額



(注)直近は4月。
 (出所)オーストラリア統計局より第一生命経済研究所作成。

輸入は、サービス輸入の増加を中心として、前月に引き続き増加した。サービス輸入のなかでも、旅行サービスの伸びが加速している（3月前月比+7.7%→4月同+9.3%）。公表元のオーストラリア統計局によれば、旅行サービスの輸入は一次速報値であり改定される可能性がある、としているものの、足もとの海外旅行者数を確認すると増加基調にあり、海外旅行の増加が輸入の拡大に寄与していると言えるだろう（図表4）。

先行きについては、輸出は多少の振れを伴いつつ幾分減少していくとみられる。最大の輸出相手国である中国が6月に金利を引き下げたことを皮切りに、今後数か月で景気支援策を導入するとみられるが、不動産セクターを中心に内需の持ち直しには時間を要するとみられ、鉄鉱石を中心とした鉱物資源の輸出が伸び悩む可能性がある。輸入は横ばい、ないしは幾分減少していくとみられる。サービス輸入が増加しているものの、既往の金融引き締めによりウェイトの大きい財輸入が幾分減少するため、全体では輸入も縮小していく可能性がある。輸出入ともに幾分減少し、貿易収支の黒字幅は維持されると考えられる。

【図表4】旅行サービスの輸入



(注)直近は4月。
 (出所)CEICより第一生命経済研究所作成。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。